

1	審議会名	丸子地域協議会
2	日 時	令和8年3月13日(金曜日) 午後4時から午後5時20分まで
3	会 場	丸子地域自治センター 4階 講堂
4	出席者	小林勉会長、宮下由紀副会長、阿部勇委員、伊藤勝廣委員、伊藤孝二委員 上野隆子委員、黒岩敏雄委員、清水正志委員、田中幸子委員、田村卓也委員 手塚博邦委員、中山康昭委員、二瓶由美委員、吉池由美委員、吉村かつえ委員 割田栄二委員
5	市側出席者	半田丸子地域自治センター次長兼地域振興課長 久保田丸子地域振興政策幹兼丸子地域教育事務所長、山崎丸子市民サービス課長 茅野丸子産業観光課長、内堀丸子地域建設課長兼丸子地域農地整備事務所長 藤原丸子・武石上下水道課長補佐、黒岩丸子学校給食センター所長 松崎丸子消防署長 【丸子地域振興課】山越地域政策担当係長、山浦主任、中島主任
6	公開・非公開等の別	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7	傍聴者	0人 ・ 記者 1人
8	会議概要作成年月日	令和8年3月23日
1	開 会 (センター次長)	
2	あいさつ (小林会長)	
3	協議事項 (進行 小林会長)	
	(1) 今後の分科会について	
	・ 三つの分科会の今後について、各分科会において協議した内容を確認した。現在の分科会は今年度末をもって終了し、来年度以降は協議が必要となる案件が生じた場合に、分科会を組織することが承認された。	
	<質疑・応答>	
	なし	
4	報告事項	
	(1) 「(仮称)道の駅まるこ」整備事業の今後の方針について	【資料1】
	・ 「(仮称)道の駅まるこ」整備事業基本計画(案)の事業精査を行うことについて、丸子産業観光課より説明した。	
	<質疑・応答>	
	(委 員) 建設予定地の土地の買収は完了しているのか。	
	(担当課) 土地の買収はまだしていない。地権者には将来の用地買収について同意を得ている。事業開始までは営農を継続できることを説明している。	
	(委 員) 事業開始の時期等、方向性が示されないために荻窪の住民が戸惑っている。	
	(担当課) 住民説明会等を密に実施している。買収の時期等については計画を再検討し、地権者には事前に丁寧に説明していく。	
	(委 員) 経費を見直す中で、盛土費用の見積もりは怎么样了か。	
	(担当課) 数億円かかるという試算も出ている。事業者から土砂の提供について提案もあるため、事業開始の段階になったら事業費の低減に向けて協議を重ねたい。	
	(委 員) 荻窪の説明会ではどのような意見があったか。	

- (担当課) 事業の開始が遅れるということに対して、「なぜ遅延するのか」「計画が甘いのではないか」と厳しい意見があった。しかし、地域振興・防災の拠点として整備していきたいという地元の強い意向があり、事業についてバックアップしていきたいという意見で最終的にまとまっている。
- (委員) 事業に7～8年かかるという話だが、これは今から7、8年後に計画を策定するということなのか。それとも着手するのが7～8年後になるということなのか。
- (担当課) 事業着手の時期については現段階では未定。事業着手から完成するまで、7年～8年かかると見込んでいる。
- (委員) 事業着手する時点では、社会情勢等変わっているかと思う。そのときに、事業中止の選択肢があるのか。
- (担当課) 道の駅整備事業は、地域振興・防災拠点の整備事業として地元から強い要望があってスタートした。市としても、丸子地域のみならず周辺地域を巻き込んで地域振興・観光振興の拠点とし、内村地区にない防災拠点としたいと考えている。今の段階においては、何年かかっても将来的に事業を実施したいと考えている。
- (委員) 防災の面から考えて、「(仮称)道の駅まるこ」の場所が沢の中であり、地震や豪雨による発災の場合はどうか。  
また、現在の建設候補地が面する国道254号は災害等で三才山トンネルが塞がれるとトラック等が相当滞留してしまう。近隣住民の避難所として活用はできるが、それ以上に長距離走行している運転手の居場所を考えなければならない。【資料1】の「(仮称)道の駅まるこ」基本計画(案)に記載されている数では駐車場の台数が少なく、近所の車だけでいっぱいになってしまう。  
また、青木村の道の駅の場合は、ベンチを外せば、炊き出し用の釜になる等、アイデアが盛り込まれている。「(仮称)道の駅まるこ」には自家発電機を一つ設置することになっているがそれだけではどうか。
- (担当課) 「(仮称)道の駅まるこ」の位置については、概要版2ページのピンク色に示した三角地帯が建設予定地であり、薄い黄色で示した土砂災害の警戒区域を概ね外れた場所に設定している。建設予定地の設定については、基本構想の段階で地元の自治会等々から提示された10ヶ所から災害が少ない場所を選定した経過がある。  
また、三才山トンネルが降雪等で通行止めになった場合は、建設予定地が平井寺トンネルから400mの地点であり、電光掲示板があることから、その先が通行止めであることを発信してUターンしていただくことを考えている。これについては、長野県の建設部局からも一定の理解を得ている。  
また、青木村のような防災設備の強化について、まだ詳細は決まっていないが、防災備蓄倉庫等の整備について考えていきたい。
- (委員) 発災したら、Uターンしてどこかへ行ってもらえる状況ではなくなる。発災して動けなくなれば、国道254号上にいるドライバーは「(仮称)道の駅まるこ」に集まるしかない。
- (担当課) 駐車場台数については、前面の国道の交通量に対して一定のルールで算出した台数。これ以上の台数の確保となると、補助事業の基準から外れてしまう。防災の面だけで駐車台数を増やすことは難しい。将来的な災害はどういった形で起きるのか不明であり、防災拠点のない内村地区に、まずは一定の防災の拠点を作りたいと市として考えている。
- (委員) 防災拠点とするからには、ある程度のトラック等を置けるようなスペースや箱物を考えなければならない。それから、国道254号というこれだけの幹線道路で交通量があるところに道の駅を作るのであればそれなりの規模が必要であり、万が一発災した場合の対応も十分考えておかなければならない。
- (会長) 時間はかかると思うが、期待する道の駅であり、早期実現に向けてお取り組みいただきたい。

(委員) 概要版 2 ページの地図を見ると、道の駅建設予定地が土砂災害警戒区域で挟まれている。土砂災害が起きた場合に両方道路が塞がれてしまうのではないか。

(担当課) 道の駅建設予定地の三角地帯は約 2 ヘクタールあるが、この面積を確保するにはこの場所しかないと選定した。国道 254 号沿いが全体的に沢沿いであり災害のおそれはあるが、それでもこの場所が安全で避難に対応ができる場所であった。

(2) 第 10 期丸子地域協議会の分科会活動について

【資料 2】

- ・「公共交通に関する分科会」「福祉・子育てに関する分科会」「文化財・歴史分科会」の各分科会長より、資料に沿って第 10 期分科会活動について報告した。

<質疑・応答>

なし

(3) 第 10 期丸子地域協議会の活動について各委員からの意見及び感想

- ・各委員が一言ずつ、地域協議会に対する意見及び感想を述べた。

## 5 その他

(1) 第 11 期丸子地域協議会の日程 (予定) について

第 1 回 4 月 23 日 (木) 午後 2 時 丸子地域自治センター4 階 講堂

## 6 閉 会